

畳表の黒すじ発生原因と対策

【要約】畳表に発生する黒すじは、いぐさ茎の熟度と関係があり、老熟茎で製織した製品に多くなる。黒すじの発生は、選別長さが120cm以上のもので製織することにより、著しく減少させることができる。

筑後分場・い草研究室					連絡先	0944-32-1029		
部会名	農	産	専門	加工利用	対象	工芸作物類	分類	指導

【背景・ねらい】

「福岡表」の銘柄高揚のためには、良質の畳表を生産しなければならない。畳を使用していると、畳表の一部のいぐさが暗褐色に変色する現象（黒すじと呼称）がみられ、この黒すじの発生は福岡表の不評の一つになっている。この不評を解消するために、黒すじの発生原因と対策を明らかにする。

【成果の内容・特徴】

- ①黒すじの発生は老熟茎で製織した製品に多く、成熟茎では少なく、若茎ではほとんど認められない。老熟茎の中でも、黒すじの発生は選別長さを長くすると、かなり少くなる（表1）。
- ②出芽時期別茎の色調についてみると、早く出芽するほど色調は暗く、変色割合は高い。したがって、黒すじが発生する茎は、5月上旬頃までに出芽することが推定される（表2）。
- ③畳表の黒すじの発生は、いぐさの選別長さを120cm以上（成熟茎）にすると、かなり少なくなる（表3）。

【成果の活用面・留意点】

- ①いぐさ加工技術指針に登載し、良質畳表を生産するための指導資料として活用する。
- ②刈遅れは老熟茎割合を高めるので、適期刈取りに努める。

[具体的データ]

表1 いぐさの熟度と黒すじの関係 (平成3年)

熟度	選別長さ (cm)	発生割合 (%)			色差	色調
		根元	中央	先端	ΔE	
老熟茎	90~105	0	82.8	96.2	6.9	全体の約1/2が茶褐色
//	105~120	0	4.1	76.0	4.3	全体の約1/3が茶褐色
成熟茎	120以上	0	0.7	3.3	2.9	やや暗い黄白色
若茎	105~120	0	0.7	1.8	0.3	明るい黄白色
//	90~105	0	0.7	1.1	0	明るい黄白色

注) ① 畳表は片打ちしたもので、室内 (北側窓下) で約2年間自然露光した。

② 色差: 若茎 (90~105cm) に対する中央部の色差 (数値が大きいほど、色調が暗い)

表2 出芽時期別の色調 (平成5年)

出芽 推定日	色差 ΔE	色調
4月20日	10.3	茶褐色に変色
5月1日	11.3	中央部まで変色
5月10日	6.3	中央部まで変色
5月20日	5.8	先端部が変色
6月1日	1.6	黄白色
6月10日	1.9	黄白色
6月20日	0	黄白色

注) ① ガラス室で1ヶ月間自然露光した。

② 色差: 6月20日出芽茎に対する中央部の色差 (数値が大きいほど、色調が暗い)

表3 選別長さと黒すじの関係 (平成5年)

選別長さ (cm)	発生割合 (%)		
	根元	中央	先端
90~105	0	1.6	44.6
105~120	0	0.3	11.5
120~125	0	0.6	6.5
125~130	0	0.3	3.3
130~135	0	0.6	7.3
135以上	0	0.6	5.9

注) 畳表は片打ちしたもので、室内 (北側窓下) で7ヶ月間自然露光した。

[その他]

研究課題名: いぐさの熟度と黒すじとの関係

予算区分: 経常

研究期間: 平成5年度 (平成2~5年)

研究担当者: 許斐健治、森藤信治、大隈充子、中村厚司、藤富慎一

発表論文等: 平成3~5年度筑後分場いぐさに関する試験成績概要書